

佐賀大学地域学歴史文化研究センター  
自己点検・評価報告書  
(平成 30 年度)

令和元年 12 月

## 30 年度の活動に関する自己評価

### (1) 教育

- ア) 教養教育を所管する全学教育機構との連携をすすめた。具体的にはインターフェース科目「佐賀の歴史と文化」企画・担当である。
- イ) 上記のほかe-ラーニングなど、学内他部局と連携し教育活動を実施した。
- ウ) センター内に閲覧室を設け、歴史・文化・郷土史関係の書籍・資料を約 2,400 点配置し、学生・市民の利用に供したほか、研究成果を展示室にて公開した。
- エ) 佐賀県立図書館との共催で市民向けの古文書講座を 8 回開催した。
- オ) 佐賀市立図書館と共催公開講座「私が教えた佐賀の歴史と文化 100 分集中講義」を 3 回開催した。
- カ) 研究成果を学生向けに発信するため、美術館と共催にて「幕末の佐賀と学問－明治維新への道」展を開催し、教員の授業に用いた。また佐賀城本丸歴史館北に復元された鍋島直正銅像に関する特別展「佐賀藩十代藩主鍋島直正展」の開催に向けて、歴史パート展示の準備・図録刊行に尽力した。

### 〈自己評価〉

本センターは設立以来、研究成果を教育活動へ活用してきた。所属教員が積極的に他部局の授業にかかわり、学生への教養・専門教育を実施したほか、本学所蔵の歴史資料を用いるなど工夫に務めた。

社会教育の面では、古文書講座・公開講座を自治体と共催などにより開催し、佐賀の歴史文化研究について、市民の理解が深まるよう努めた。

### (2) 研究

- ア) 佐賀大学附属図書館所蔵「小城鍋島文庫」の歴史関連資料から、中世肥前・小城地域における城郭研究をすすめ、成果を小城市との共催展「千葉の城・鍋島の城－小城武士の本拠を探る－」を開催して市民に還元したほか、研究図録を刊行した。また展示にあわせて第 5 回九州城郭研究大会「中世領主の本拠と城館」を北部九州中近世城郭研究会・小城市教育委員会と共催した。
- イ) 地域学歴史文化研究センターで収集した史料の研究・公開推進のため、『古文書に見る鍋島直正の藩政改革(二)』を、低平地研究会と共同で刊行した。
- ウ) 地域学研究の基礎的情報を蓄積するため、野中家・山本家の史料調査を実施した。
- エ) 第 12 回地域学シンポジウム「幕末佐賀の歌人たち－直正と小車社－」を開催した。
- オ) 第 8 回在来知歴史学国際シンポジウムを後援した。
- カ) 所属教職員のほか、佐賀地域歴史文化に関する学外研究者の成果をまとめた研究紀要第

13号を刊行した。

キ)佐賀学ブックレット第7冊『佐賀藩の医学史』を刊行した。

ク)研究プロジェクト「地域歴史資料の研究利用促進にむけた環境整備－佐賀大学附属図書館所蔵小城鍋島文庫「小城藩日記」データベース公開に向けて－」を実施し、小城藩日記データベースのデータ追加やシステム更新をすすめた。

ケ)同「幕末地方歌壇の研究－佐賀藩の場合－」を実施し、第12回地域学シンポジウムで成果を報告した。

コ)文献学・国文学研究部門の教員が中心となって「小城鍋島文庫研究会」を運営し、附属図書館所蔵の古典籍の研究を進めた。

サ)伊藤昭弘准教授は科研費基盤研究(B)「佐賀藩薬種商・野中家資料の総合研究」(研究代表者、平成28～30年度、30年度3,400千円)、基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」(研究分担者、平成26～30年度、30年度70千円)、基盤研究(B)「日本列島における鷹・鷹場と環境に関する研究」(研究分担者、平成28～32年度、30年度80千円)、国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究「地域歴史資料を用いたデータベースのシステム向上化－佐賀大学附属図書館所蔵小城鍋島文庫「小城藩日記」データベースの利用促進をめざして－」(研究代表者、平成30年度、700千円)を獲得した。三ツ松誠講師は科研費「若手研究(B)「国学者西川須賀雄と神道国教化の時代」(研究代表者、平成29～32年度、30年度700千円)、国文学研究資料館共同研究(若手)「幕末地方歌壇の研究－佐賀藩の場合－」(研究代表者、平成29～30年度、30年度1,000千円)を、吉岡誠也研究員は科研費研究成果公開促進費(平成30年度、1,500千円)獲得した。ほか特命教員・同研究員も科研費を獲得している。

#### 〈自己評価〉

前年度までと同規模の研究成果、研究費獲得を達成することができており、今後も継続・増加をはかる。

### (3)国際交流・地域貢献

ア)小城市教育委員会との共催展「千葉の城・鍋島の城－小城武士の本拠を探る－」を開催し、佐賀大学附属図書館『小城鍋島文庫』の研究のほか、センターにおける研究成果を市民に公開した。

イ)上記共催展に伴い講演会を2回開催した。

ウ)佐賀県との共催古文書講座を開催した。

エ)佐賀市との共催公開講座を開催した。

オ)「佐賀県歴史データベース」により山本家文書など佐賀県関係古文書のデータを公開した。

カ)みやき町の公開講座に協力し、センターより講師を派遣した。

キ)ウェブサイトを公開し、センター事業の紹介や研究成果の発表を行った。

- ク) 中国の研究者との国際シンポジウムを後援した。
- ケ) 佐賀県教育委員会と共催で講演会「発掘された佐賀－発掘成果速報 2018－」を開催した。  
また講演会にあわせ、発掘品の展示会を開催した。
- コ) 佐賀県による肥前さが幕末維新博覧会の開催にあたり、専任・併任・特命教員らで事務局からの諮問に応え、監修を担った他、リアル弘道館ゼミナールなど各種関連イベントに登壇した。明治維新に関する新聞取材等にも積極的に応えた。
- サ) 第 8 回在来知歴史学国際シンポジウム(11 月 9 日～14 日)を後援し、特命教授が登壇している。
- シ) ユネスコ世界遺産を考える高校生会議(8 月 18 日～19 日)を主催し、専任教員や特命教員、研究員らが運営やコメンテーターを担当した。

#### 〈自己評価〉

展示・講演会・公開講座の開催による研究成果の市民・地域社会への還元、国際シンポジウムの後援など、本年度も大きな成果をあげることができた。また、今年度は明治維新 150 年を祈念したイベントが佐賀県内で開かれ、幕末佐賀藩研究に対する関心が高まっており、こうした地域のニーズを踏まえた研究を展開したい。

#### (4) 組織運営

- ア) 平成 31 年 3 月現在専任教員 2 名、併任教員 4 名、特命教員 3 名、同研究員 1 名、教務補佐員 1 名、事務補佐員 1 名、研究員 1 名を配置し、センター長を中心とした円滑な組織運営・研究活動に努めた。
- イ) 各学部から選任された委員、附属図書館長・総合情報基盤センター長など本センターの業務に関わる部局の部局長など学長が必要と認めた委員、本センター長・副センター長・専任教員・部門長により構成する運営委員会(学部の教授会に相当)を 2 回開催し、センター運営に関わる事案の審議を行った。
- ウ) センター専任・併任教員による会議を 2 ヶ月に 1 度開催し、センターの運営について検討した。
- エ) 上部機関となった教育学系と人事・予算執行などについて協議し、今後の運営体制を確認した。

#### 〈自己評価〉

組織運営はこれまで同様円滑にすすめることができた。特に教育学系との連携を強化した。